

令和7年度 墨田区立立花幼稚園 幼稚園経営計画・経営報告書（自己評価・学校関係者評価）

作成者 園長 宮田 宏子

幼稚園教育目標	○心も体も元気な子ども ○自分で考えやりぬく子ども ○互いを大切にしている子ども
目指す幼稚園像	『一人一人が輝く温かい幼稚園』
目指す幼児像	・困難に向き合い、よりよい方向へ向かっていこうとする幼児
目指す教師像	・一人一人に応じた丁寧な指導を行い、やりがいと自己の成長を感じる教師

<p>○令和7年度 幼稚園経営計画における重点内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接体験を通じた遊びの充実 ・様々な人との関わり、地域との連携を通じたコミュニケーション力の育成 ・家庭との連続性を踏まえた教育の充実
--

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価		
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等
保育活動等	今年度の研究テーマ「一人一人の探究心を育む」に向けた教育を実施する。 ①研究保育や実践事例を通して、環境設定や指導に生かす。	①講師を招聘しての園内研究会を年4回、実践事例検討会を月1回実施する。	4 園内研究会実施 年10回以上	3	4 教員自己評価「幼児の探究心の育成」達成 90%以上	4	・今年度、新たな研究テーマに向け講師からの指導、園庭環境の工夫、事例検討など重ねた。指導に生かすことができ幼児の成長が見られた。	・研究の継続とともに、日々の適切な評価・反省を実施し、指導計画の改訂に生かす。	A	A	・保護者からも100%の評価があり、充実した教育活動であると感ずる。 ・先生方が根気強く、遊びを通して一人一人の興味・関心を高めようとしている。
			3 園内研究会実施 年7回以上		3 教員自己評価「幼児の探究心の育成」達成 70%以上						
			2 園内研究会実施 年4回以上		2 教員自己評価「幼児の探究心の育成」達成 50%以上						
			1 園内研究会実施 年4回未満		1 教員自己評価「幼児の探究心の育成」達成 50%未満						
	人と関わる力を育む教育を実施する。 ①様々な人と関わる教育活動を推進する。	①学年間交流週1回以上、保護者保育参加月2回以上、高齢者交流年9回、区立幼稚園合同保育年8回以上、保育園交流を年3回以上、小学校交流年2回以上実施する。	4 交流活動の実施状況 90%以上	3	4 教員自己評価「幼児の関わる力の育成」達成 90%以上	3	・学年間交流、他園との合同保育を多く実施したことで、関わる力の育成につながった。 ・保育園や小学校との交流を計画的に実施することが必要である。	・園児数減少に伴い、学年間での異年齢交流の機会を大切にするとともに、関わりのもてる環境の見直し、時間の設定などを工夫する。	A	A	・他園や保育園との合同保育、交流が多くなりうれしく思う。 ・少人数の保育を工夫している。
			3 交流活動の実施状況 70%以上		3 教員自己評価「幼児の関わる力の育成」達成 70%以上						
			2 交流活動の実施状況 50%以上		2 教員自己評価「幼児の関わる力の育成」達成 50%以上						
			1 交流活動の実施状況 50%未満		1 教員自己評価「幼児の関わる力の育成」達成 50%未満						
	特別な支援を必要とする幼児への組織的な支援を実施する。 ①個別支援計画に基づいた支援を全教職員で共通理解し、実践する。	①各学級において、年2回の巡回相談の伝達を含め、保育記録・支援方針についての共通理解を週1回以上実施する。	4 支援方針についての共通理解実施 週1回以上	4	4 教員自己評価「共通理解が組織的支援に有効」90%以上	3	・巡回相談での学びの共通理解、日々の記録ノートが、個別の具体的な支援につながった。 ・当該幼児の支援目標達成の姿が見られた。	・巡回相談内容の伝達について、教職員全体でのさらなる共通理解に向け、時間を捻出する。より効果的な記録ノートの在り方を探る。	A	A	・一人一人のペースで支援がなされていることが子どもたちの成長の姿から分かる。
			3 支援方針についての共通理解実施 月3回以上		3 教員自己評価「共通理解が組織的支援に有効」70%以上						
			2 支援方針についての共通理解実施 月2回以上		2 教員自己評価「共通理解が組織的支援に有効」50%以上						
			1 支援方針についての共通理解実施 月2回未満		1 教員自己評価「共通理解が組織的支援に有効」50%未満						
生活指導等	基本的生活習慣・社会習慣を身に付ける取組を実施する。 ①健康な生活、身辺自立を育む教育を推進する。	①身辺自立に向けた個別指導、学級指導を毎日実施する。	4 身辺自立に向けた指導の実施 90%以上	4	4 教員自己評価「幼児の身辺自立の育成」達成 90%以上	4	・身辺自立に向けた個別の丁寧な指導により、幼児の基本的生活習慣や集団の中での社会習慣が身に付いた。年2回のあいさつ運動は、幼児が自信をもってあいさつする姿につながっている。	・幼児一人一人の自立に向け、特に食事や排泄等の身辺自立について、家庭との連携をさらに深め、推進する。	A	B	・引き続き家庭と連携しながら進めてほしい。
			3 身辺自立に向けた指導の実施 70%以上		3 教員自己評価「幼児の身辺自立の育成」達成 70%以上						
			2 身辺自立に向けた指導の実施 50%以上		2 教員自己評価「幼児の身辺自立の育成」達成 50%以上						
			1 身辺自立に向けた指導の実施 50%未満		1 教員自己評価「幼児の身辺自立の育成」達成 50%未満						
	②規範意識や自己の気持ちを調整する力を育成する。	②適時、遊びや生活のルールを幼児とともに考えたりつくったりし、実践する。	4 幼児とのルールづくりの実施 90%以上	3	4 教員自己評価「幼児の規範意識の育成」達成 90%以上	3	・遊びや生活の中で、場面を捉え、集団生活に必要なルールに気付けるよう指導した。特に5歳児は、幼児とともに考え生活のルールづくりを実施し、規範意識の育成につながった。	・幼児自身が考え、必要感を感じ自分事として、自分たちで生活のルールをつくり守ろうとする姿を目指し、教育内容に位置付ける。	B	A	・集団生活のルールなどを優しく教えていただくことがよい経験となる。 ・ルールを守るだけでなく、必要性や子どもとともに考えることがとてもよい。
			3 幼児とのルールづくりの実施 70%以上		3 教員自己評価「幼児の規範意識の育成」達成 70%以上						
			2 幼児とのルールづくりの実施 50%以上		2 教員自己評価「幼児の規範意識の育成」達成 50%以上						
			1 幼児とのルールづくりの実施 50%未満		1 教員自己評価「幼児の規範意識の育成」達成 50%未満						
	安全への意識、危機回避能力の育成や幼児の安全を確保するための取組を実施する。 ①安全への理解、考えて行動することのできる力を育成する。	①安全指導月1回以上、避難訓練月1回以上実施する。遊び、生活の中で適宜実施する。	4 安全指導、避難訓練の実施 月3回以上	4	4 教員自己評価「幼児の安全への意識向上」90%以上	4	・定期的な安全指導、安全点検を実施し、大きな事故なく過ごすことができた。 ・様々な想定避難訓練を実施し、幼児の安全への意識や考えて行動する力が高まった。	・幼児が自ら考えて行動したり、予測して危機回避したり、互いに助け合ったりできるよう、引き続き指導の徹底を図る。 ・不審者対策に関し行政との連携を図る。	A	A	・危険を回避する能力は就学前に身に付けさせたい。
			3 安全指導、避難訓練の実施 月2回以上		3 教員自己評価「幼児の安全への意識向上」70%以上						
			2 安全指導、避難訓練の実施 月1回以上		2 教員自己評価「幼児の安全への意識向上」50%以上						
			1 安全指導、避難訓練の実施 月1回ずつ		1 教員自己評価「幼児の安全への意識向上」50%未満						

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価		
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等
園の管理運営	幼児の実態に合わせた教育目標設定及び園評価を実施する。 ①自己評価、幼稚園評価を踏まえた教育課程の評価・反省、次年度教育課程作成を実施する。	①年2回の教員自己評価、年1回の保護者アンケートをもとに、教育課程評価・作成に関する会議を3回実施する。	4 教育課程評価・作成会議の実施 4回以上	3	4 教員自己評価「教育課程への参画意識向上」90%以上	3	・毎月の職員会議において、都度、行事等の評価・反省を実施したことで、次年度に向けた園評価にスムーズに結びつけることができた。次年度の教育課程作成に生かすことができた。	・毎月の評価・反省の際、常に教育課程の評価・反省に反映させることで、教員の教育課程への参画意識向上、カリキュラム・マネジメント力向上につなげる。	A	A	・子どもの自主性をどこまで受け入れるか難しいと感じるが、保護者の意見を受け入れ個別に対応していることを評価する。
			3 教育課程評価・作成会議の実施 3回		3 教員自己評価「教育課程への参画意識向上」70%以上						
			2 教育課程評価・作成会議の実施 2回		2 教員自己評価「教育課程への参画意識向上」50%以上						
			1 教育課程評価・作成会議の実施 1回		1 教員自己評価「教育課程への参画意識向上」50%未満						
	経営方針に基づいた組織的な教育活動、園経営を実施する。 ①学級経営案・週案の作成を共有により、計画的、組織的な教育活動を実施する。	①年3回の学級経営案作成と、週1回の学年会（週案打ち合わせ）を実施し、全職員で共有する。	4 週1回の週案共有と共通理解 100%	4	4 教員自己評価「計画的、組織的な教育の実施」90%以上	3	・週案の共有が図られ、毎日の朝会においても週案内容の確認を実施したことで、組織的・計画的に進めることができた。 ・学級経営案の共通理解には課題が残る。	・担任が作成する学級経営案について、全教職員で共通理解する機会をもち、週案とも結びつけ、指導に生かせるようにする。	B	B	・様々な行事が計画的に取り入れられ、子どもたちにとってもよい経験、思い出となっている。
			3 週1回の週案共有と共通理解 90%以上		3 教員自己評価「計画的、組織的な教育の実施」70%以上						
			2 週1回の週案共有と共通理解 70%以上		2 教員自己評価「計画的、組織的な教育の実施」50%以上						
			1 週1回の週案共有と共通理解 50%以上		1 教員自己評価「計画的、組織的な教育の実施」50%未満						
	教員の指導力向上のための取組を実施する。 ①教員の保育理論構築と指導力向上を図る。	①朝会時に全教職員を対象に指導、人権、安全、服務などに関するミニ研修を週1回以上実施する。	4 週1回のミニ研修会の実施 100%	4	4 教員自己評価「自己の指導力や意識向上」90%以上	4	・外部講師による園内研究や、研究会・研修会への参加、朝会時のミニ研修、学年会などを通して、教員の指導力向上や意識向上が見られた。	・全教職員への伝達研修の徹底、自主的な研修への参加の奨励を通し、互いに高め合いながら指導力や専門性向上につなげる。	A	A	・外部の様々な力を借りて幼児の成長を促している。
			3 週1回のミニ研修会の実施 90%以上		3 教員自己評価「自己の指導力や意識向上」70%以上						
			2 週1回のミニ研修会の実施 70%以上		2 教員自己評価「自己の指導力や意識向上」50%以上						
			1 週1回のミニ研修会の実施 50%以上		1 教員自己評価「自己の指導力や意識向上」50%未満						
家庭・地域連携	教育方針、教育内容について分かりやすく発信し、理解促進を図る。 ①公開、参観、掲示、ホームページを活用し、広く発信する。	①幼稚園公開、参観年5回以上、保護者会・懇談会年8回実施するとともに、写真を活用したドキュメンテーション掲示やホームページ更新を週1回以上実施する。	4 週1回のドキュメンテーション、ホームページ更新 90%以上	3	4 保護者・外部評価での教育内容肯定的評価 90%以上	3	・幼稚園公開、保育参観、保護者会、配布物、写真掲示、ホームページ等で教育内容やその意義について発信することができた。保護者アンケートでは、高い肯定的評価を得られた。	・未就園児の会と幼児との交流の機会を増やし、教育内容や公立幼稚園の魅力発信につなげる。 ・様々な園に由来のある方が多い状況を踏まえ、より分かりやすい発信を工夫する。	A	B	・様々な園に由来のある方への伝達は、幼保小中全てにおいてともに学び合えるといよい。
			3 週1回のドキュメンテーション、ホームページ更新 70%以上		3 保護者・外部評価での教育内容肯定的評価 70%以上						
			2 週1回のドキュメンテーション、ホームページ更新 50%以上		2 保護者・外部評価での教育内容肯定的評価 50%以上						
			1 週1回のドキュメンテーション、ホームページ更新 50%未満		1 保護者・外部評価での教育内容肯定的評価 50%未満						
	保護者や地域の理解や協力を得た教育活動を実施する。 ①保護者保育参加や地域ゲストティーチャーを活用した教育活動を実施する。	①運動遊び、絵本、手話、あいさつ運動、栽培、季節行事など、ゲストティーチャーによる活動を年14回以上実施する。	4 ゲストティーチャーによる教育活動の実施 年14回以上	4	4 保護者・外部評価での教育内容肯定的評価 90%以上	4	・保護者参加行事やゲストティーチャーの活用は、計画以上に実施することができ、教育内容の充実とともに教育的効果をあげることができた。	・地域の施設や人材を活用した教育活動は、自園の特色として継続し、教育内容の充実を図る。	A	A	・地域の教育力を生かしていくことは大切である。
			3 ゲストティーチャーによる教育活動の実施 年12回以上		3 保護者・外部評価での教育内容肯定的評価 70%以上						
			2 ゲストティーチャーによる教育活動の実施 年10回以上		2 保護者・外部評価での教育内容肯定的評価 50%以上						
			1 ゲストティーチャーによる教育活動の実施 年10回未満		1 保護者・外部評価での教育内容肯定的評価 50%未満						
	保護者や地域からの要望を踏まえた教育を実施する。 ①保護者や地域からの意見や要望を教育内容に生かす。	①日常的の対応とともに、保護者個人面談を年3回、保護者・地域による行事ごとのアンケート、年1回の幼稚園評価を実施する。	4 日常の対応、定期的なアンケートの実施 90%以上	4	4 保護者・外部評価での保護者対応肯定的評価 90%以上	4	・日常的な対応や行事ごとのアンケート、個人面談などを実施し、保護者にフィードバックするとともに、教育内容に生かすことができた。	・園児数が少ない中であるからこそ、一人一人の保護者とのコミュニケーションをより密にし、幼児の成長のための連携を強化する。	A	A	
			3 日常の対応、定期的なアンケートの実施 70%以上		3 保護者・外部評価での保護者対応肯定的評価 70%以上						
			2 日常の対応、定期的なアンケートの実施 50%以上		2 保護者・外部評価での保護者対応肯定的評価 50%以上						
			1 日常の対応、定期的なアンケートの実施 50%未満		1 保護者・外部評価での保護者対応肯定的評価 50%未満						

○令和7年度 幼稚園経営報告のまとめ（総括）

職員体制が大きく変わった今年度であったが、遊びの中での幼児の主体性、遊びを通した学び、人との関わり、家庭・地域との連携を重視した教育活動の充実が図られ、一人一人の幼児の育ちにつながっている。保護者及び学校関係者から高評価をいただき、園の教育内容の理解が得られていることを感じた。引き続き、園の教育内容や魅力について発信の仕方を工夫し、幼児はもとより、保護者、地域、教職員を含めた一人一人が温かい関係の中で輝ける幼稚園であるよう努めたい。